



HOSHIBA

医療法人社団星秀会

ほしば歯科医院ニュースレター

Vol.47

ようやく、「秋めいた空気」をなんとなく感じられるようになってきましたね。

それにしても今年は荒天の年です。生命を脅かすような被害も沢山です。被害にあわれた方々には心よりお慰みを申し上げます。この荒天は自然にも変化を与えたようです。青森では、先の台風により桜の葉が全部散り、加えて残暑が厳しかったため、桜の花が咲いたそうです。秋に葉が散り春になり、ある気温になると花が咲くはずなのに、短期間で同じような状況になり咲いてしまったそうです。『春』の代名詞である桜が『秋』になろうとしている今、咲いてしまったのです。

『芸術の秋』『食欲の秋』『スポーツの秋』何をするのも1番気持ちのいい、この季節は、素直に秋を感じられることを切に願います。

✪ 削らなくても虫歯は治る？ ✪

むし歯の治療をするときに、詰め物をしますね。この詰め物にはおのずと耐久年数があります。最近の口腔衛生学会の調査によると、毎日たゆまず働き続けている歯に、人工的な修復物を使った場合、耐久年数は素材によって異なりますが、およそ5年から7年という結果がでています。

どんなにきれいに詰め物をして、削られた歯と詰め物の間にはかならず隙間ができるのです。10ミクロンほどの隙間ができてしまいます。ミクロンの単位の話ですから「なんだ～そんな小さな隙間か」と思われるでしょうが、むし歯菌の大きさは1ミクロンほどですから、この隙間を簡単に通り抜けてしまうのです。

口の中の環境が悪化していれば、どんなにきれいに詰めていてもむし歯は発生します。それに、修復物の耐久年数を過ぎると再治療が必要になるでしょう。2度目の充填をするためには、さらに歯を大きく削らなければならないということも起こってきます。たとえば、7歳ではじめて詰

め物をしたとします。15歳でそろそろ2度目の治療を受けます。35歳でかぶせ物をかぶせ、下手をすると45歳で抜けて入れ歯になるというおそろしい歯のライフサイクルが予測できてしまいます。

以前は「1度なってしまったむし歯はひどくなる一方」という考えの元、早期充填が最も必要な処置だったのです。しかし今では、再石灰化の力で初期なら削らずにむし歯をなおせることがわかってきました。はじめての詰め物の時期を遅らせれば、無くせばいいのです。そうすれば、歯のライフサイクルを改善できます。

痛みが出てしまうほどひどいむし歯になってしまえば、削らざるをえないでしょうが、初期のむし歯なら、唾液の再石灰化の作用でむし歯の進行をとめたり、治すこともできます。できるだけ初期のうちに発見して、削らずに治すか、進行を止めるのです。もしわずかに穴が開いてしまっても、それ以上そのむし歯を大きくしないのです。

最も重要なのは口の中の環境を整えることです。ご存知のように、むし歯というのは、むし歯菌が、食べかすを栄養にして酸を作ることが原因です。口の中が酸性になり歯の表面からミネラルを奪います。これを脱灰といいます。脱灰という現象は、食べたり飲んだりする度に起こります。その一方、

失われたミネラルをもどす再石灰化の働きを担っているのが唾液です。歯の表面が唾液にひたされると、



歯はミネラルを取り戻し、再石灰化が行われるのです。この2つの働きのバランスが崩れて脱灰ばかり多くなるとむし歯ができるのです。脱灰と再石灰化がバランスを維持できているとき、むし歯の進行は止まります。脱灰が少なくすれば、軽

いむし歯なら治ってしまいます。

口の中の環境を整え、リスクコントロールをするためには以下のことに気をつけましょう

1. 食事はよく噛んで。たっぷり唾液をだしましょう
2. 飲食の回数を間食を含めて5回以内にする。ダラダラ食べない
3. 就寝直前の飲食はしない
4. 正しいブラッシングをする
5. 定期的にプロのクリーニングを受ける

ご意見はこちら

ほしば歯科医院へのご意見、ご感想、その他何でも受け付けております。どのような方法でも結構ですからお気軽におっしゃってください。

電話 03-3686-4657

ファックス 03-3877-7771 (院長直通)

E-mail info@hoshiba.net

<http://www.hoshiba.net>



お知らせ

江戸川区口腔保健センター にこにこ歯科診療所

9月28日に「江戸川区口腔保健センター にこにこ歯科診療所」がオープンしました。

いろいろな障害や寝たきりなどのために、地域の歯科医院で治療を受けることが困難な方の歯科診療をおこないます。

このセンターは、江戸川区が施設を建設し、社団法人東京都江戸川区歯科医師会が管理運営を行っています。

専任歯科医師のほか、障害者(児)歯科診療の特別な研修を受けた江戸川区歯科医師会の歯科医師が診療にあたります。ほしば歯科医院院長 干場貫二もそのひとりです。

診療時間：火～土 9：00～17：00

予約制

所在地：江戸川区江戸川5-14-4

TEL： 5667-8020

FAX： 5667-8022

<http://www.edo418.jp/2525/>



現在、江戸川区歯科医師会で要職を務めさせていただいております。これも地域のため、皆様のためと信じ頑張っていきたいと思っています。ただ、会議が毎日のように入っており、診療時間を短縮する日が増えております。予約がなく、閉院時間近くにご来院される方は、ぜひ一度ご連絡ください。又、ご迷惑をおかけいたしますがしばらくの間、木曜日は休診とさせていただきます。



編集後記

「出るくいは打たれる」といいますが、「出すぎるくいは打たれない」とある人が言ってました。ただ、目立っていたのでは、けむたがられたり、反感をかったりと、排除されますが、あることに秀でたり、極めたりすると認められますよね。何か新しいことや特別なことをはじめるときは、勇気がいります。「出るくい」になるのか「出すぎるくい」になるのか、その人の信念と努力次第ですね。

ほしば歯科医院ニュースレター 第47号

発行日 2004年10月2日発行

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西1-13-7

tel. 03-3686-4657 fax. 03-3877-7771

e-mail. info@hoshiba.net

<http://www.hoshiba.net>

発行責任者 干場貫司